

# 富士山静岡空港旅客ターミナルビル

Mt.Fuji Shizuoka Airport Passenger Terminal Building

No. 16-004-2010更新

新築  
その他

発注者	富士山静岡空港株式会社	カテゴリー				
設計・監理	戸田建設一級建築士事務所 TODA CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	戸田建設株式会社	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

## 人と自然にやさしい空港旅客ターミナルビル

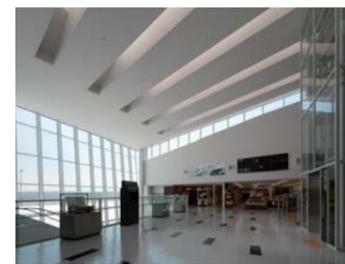
### 概要

2009年6月に開港した富士山静岡空港旅客ターミナルビルは、自然エネルギーを効率的に利用し快適な空間を実現するべく様々な取り組みを行なった。

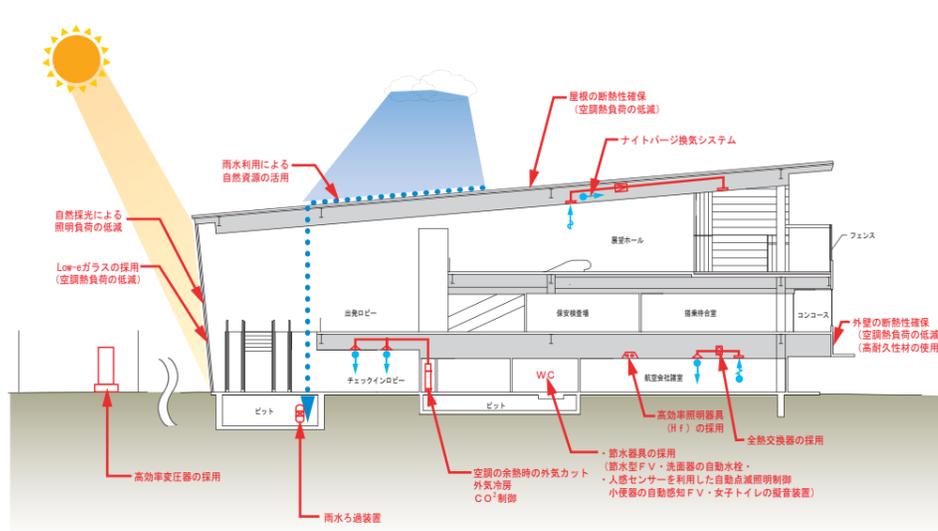
その内容として、南側中央の吹き抜け部のカーテンウォールには熱負荷抑制として超高性能Low-Eガラスを採用、自然エネルギー利用としてナイトパーズ換気、外気冷房、昼光利用や雨水利用を積極的に取り入れた。また拡張への配慮として設備の対応を容易に行なえる計画としている。さらに設備システムの高効率化として高効率熱源システム、CO<sub>2</sub>制御や中央監視システムによる設備の効率的運用をおこなっている。



南側外観

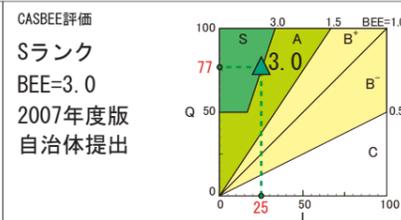


2階出発ロビー



建物データ

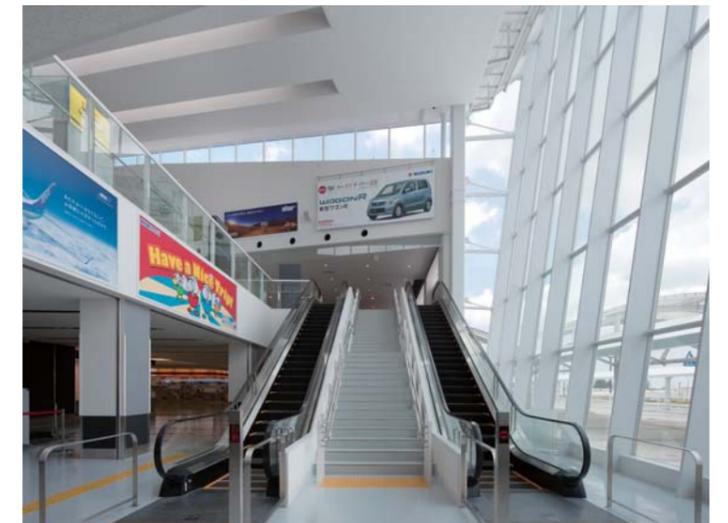
所在地	静岡県牧之原市坂口
竣工年	2009年
敷地面積	1,893,360㎡
延床面積	11,395㎡
構造	S造
階数	地下0階、地上3階



大開口のカーテンウォールにLow-Eガラスを採用  
空港旅客ターミナルにおいて、チェックインカウンターから出発ロビーに至るシーンは、旅客が通る動線の中で重要な部分である。そのシーンを吹き抜けの大空間とカーテンウォールにより、明るく開放感のある場所とするため、Low-Eガラスを採用し熱負荷抑制を行なっている。



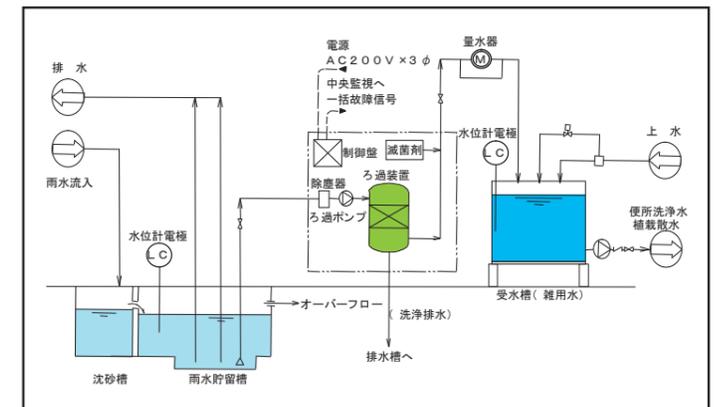
1階チェックイン・ロビー



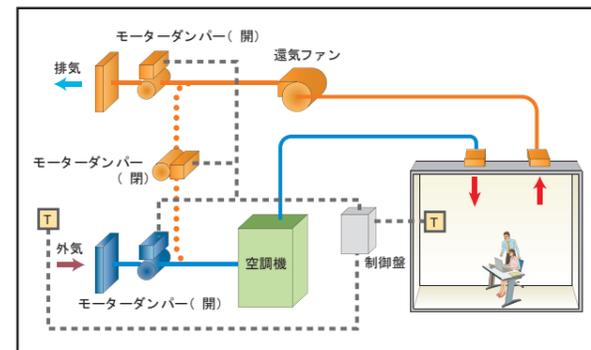
1階吹き抜け

### 自然エネルギーの効率的利用

空港旅客ターミナルビルの設備計画では適切な室内環境を整えると共に将来的な変化、発展、更新性、メンテナンス性、環境性、経済性、災害時対応性が重要となる。その中で人工的設備性能だけに頼らず、自然のエネルギーを効率的に活用し、快適で省エネルギーとなる空間を実現した。空港旅客ターミナルのトイレは、多くの位置に配置されており、その数は非常に多い。その洗浄水等に雨水を有効的に活用するため、雨水利用システムを導入。また執務空間等においてもナイトパーズ換気システム、外気冷房システム、昼光利用システムを導入し省エネルギー化を図っている。



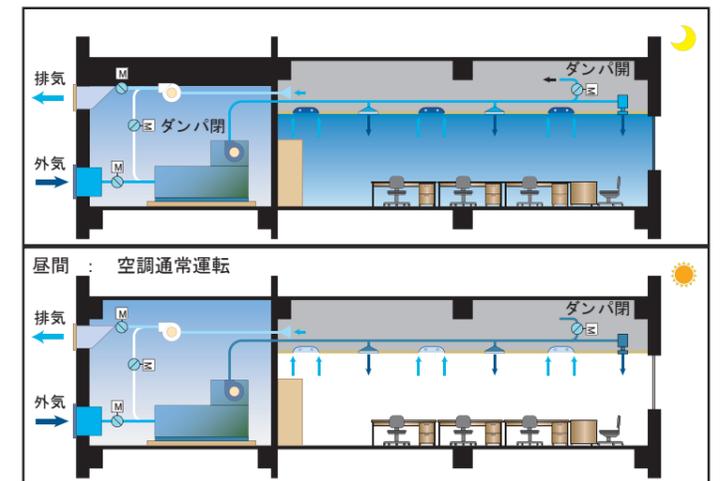
雨水利用システム



外気冷房システム

### 設計担当者

建築：PM 針谷俊也、小林利男、中川康弘、服部道信、浦野直樹  
構造：青島正典/設備：天野修、伊藤茂久、西原征一郎



ナイトパーズ換気システム

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2.2. 耐用性・信頼性 (建築基準法1.5倍の耐震性、機械配管支持耐震クラスS、排水貯留システム、非常用電源)
- LR1.1. 建物の熱負荷抑制 (超高性能Low-Eガラス)
- LR1.2. 自然エネルギー利用 (ナイトパーズ換気システム・外気冷房システム・昼光利用システム)
- LR1.3. 設備システムの高効率化 (CO<sub>2</sub>制御、ブラインド・照明センサー制御、中央監視)
- LR1.4. 効率的運用 (モニタリング)
- LR2.1. 水資源保護 (雨水利用システム、節水型便器)